

Contents

震災復興への取り組み

- ① 震災後の東北海域のモニタリングを継続 ..... 2
- ② 平成 23 年度 3 次補正予算・種苗発生状況等調査事業 ..... 4
- ③ がれき回収技術への取り組み ..... 6

特集 日本海のサワラ

- 日本海におけるサワラの漁業の実態・資源変動 ..... 8
- サワラの産卵場は変わったのか? ..... 10
- 日本海産サワラの食品としての特徴 ..... 12
- サワラの有効利用に向けた取り組み ..... 13
- サワラの加工品いろいろ ..... 14

研究の現場から

- マアナゴの産卵場所を特定! 増養殖研究所 研究グループ  
生活史の解明や資源保護のあり方を考える手がかりに ..... 16
- 旬を迎えたマアナゴ〜横浜市金沢区・柴漁港から  
マアナゴにやさしい漁法で“江戸前”を支える ..... 20

Topic

- 瀬戸内海におけるサワラ資源回復に向けた取り組み ..... 22

研究成果情報

- 天然のスワイガニの交尾・産卵に成功 ..... 23

あじの魚葉に乾杯

- 第 20 回 夏の風物詩  
透き通るような白さのスズキの洗魚と今流行の絶品塩麹焼き ..... 24

知的財産情報

- 頭も内臓もいっしょに「丸ごとすり身」  
〜カタクチイワシなどの小型魚の利用をめざして〜 ..... 26
- マダイリドウイルス病に対するワクチン製剤作製方法の特許が成立しました! ..... 27

会議・イベント報告

- 「平成 23 年度海洋水産資源開発事業成果報告会  
〜漁船漁業の新たなビジネスモデルの構築に向けて〜」を開催 ..... 28
- 成果発表会「水産ゲノム研究のビッグバン  
〜水産におけるゲノム情報の活用〜」を開催 ..... 28
- マイワシに関するミニシンポジウムを開催 ..... 29
- クサカリツボダイ資源評価ワークショップを開催 ..... 29

ピックアップ・プレスリリース

- マハタの養殖生産に朗報  
〜長年の懸案であったウイルス病ワクチンが製造販売へ〜 ..... 30
- 世界初! 中国水域で大型クラゲの幼体を発見 〜出現予測の高度化に向けて前進〜 ..... 31

新たな研究開発事業

- シラスウナギの安定大量生産に向けたプロジェクト研究に取り組みます ..... 32

Information

- 中央水産研究所高知庁舎を閉庁しました ..... 33

刊行物報告

- 研究開発情報「北の海から」 第 13 号 ..... 34
- 研究開発情報「SALMON 情報」 第 6 号 ..... 34
- 研究開発情報「日本海 リサーチ&トピックス」 第 10 号 ..... 34
- 研究開発情報誌「西海」 第 11 号 ..... 34
- 西海区水産研究所主要成果集 第 16 号 ..... 34
- 海洋水産資源開発ニュース No.404 (沖合びき網) ..... 34
- 平成 23 年度海洋水産資源開発事業報告書 No.6 (北太平洋さんま漁業) ..... 34
- 沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会ニュースレター No.004 ..... 34
- 水産総合研究センター研究報告 第 35 号、第 36 号 ..... 34
- おさかな瓦版 No.46、No.47 ..... 34

- おさかな チョット耳寄り情報 その31  
スズキ ..... 35
- 編集後記、執筆者一覧 ..... 35

表紙写真 京都府漁連舞鶴市場 (京都府農林水産技術センター 海洋センター提供)  
【枠内】マアナゴのレプトセファルス (増養殖研究所横須賀庁舎で撮影)

震災復興への取り組み①

震災後の東北海域の  
モニタリングを継続

東日本大震災により、常磐三陸地方の水産業は甚大な被害を受けました。その復興に向けて、漁船も含ま

陸上施設の整備が進められています。が、漁場環境の変化による水産資源への影響が懸念されていました。と

くに、水産資源の状況を把握するためには、海域の水温状況などモニタリング観測から得られる情報が非常に重要となってきます。

しかし、今回の震災により、東北海域でモニタリング調査を行っている各県の関係機関の調査船も多くの損傷を受け、水産総合研究センター東北水産研究所所属の調査船若鷹丸も大きな損傷を受けました。そのため、各機関が長年継続してきた、モニタリング調査の実施が危ぶまれる状況になりました。しかし、図1

に示すような各機関が担当する調査海域について、当センターや隣接県、大学などが協力して観測を継続することができました。2011年4月早々には北海道水産研究所所属の調査船北光丸を当海域での資源・環境調査に従事させるとともに、その後も青森県から茨城県の調査船とも連携協力して調査を行いました。6

月からは修理を終えた若鷹丸も当海域の水産資源や漁場環境のモニタリング調査に復帰し、大学も含む関係機関により調査が継続されました。

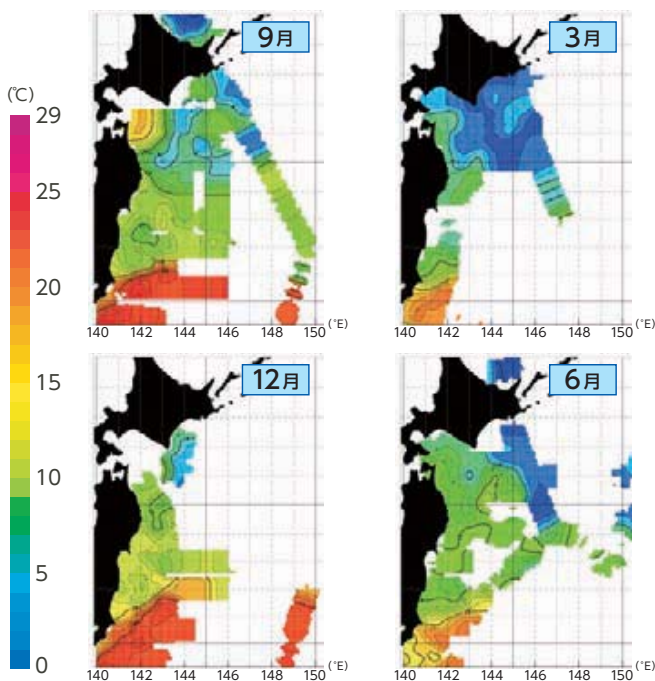


図2. 2011年3月、6月、9月、12月の水深100メートルの水温分布図  
当センターのほか各県の水産関係機関、気象庁、海上保安庁、海上自衛隊、水産庁などの関係機関の協力で集められた海洋観測データをもとに描いています

とくに被害が大きかった、宮城、福島両県では、調査船が沈没し、海洋観測が不可能になったことから、当センターでは10月以降、中央水産研究所の調査船こたか丸を福島県に派遣し、水産庁も調査船照洋丸を10月12日にわたり、宮城、福島両県沖に派遣し、それに両県職員が乗船し、海洋観測を継続して実施することができました(図2、写真)。これらの協力で海洋モニタリングの中断を最小限に留めることができました。7月にはサンマの長期漁況予報、12月にはアジ、サバ、イワシ類の長期漁況予報を発表し、当海域で操業再開を考えていた漁業者に有益な情報を提供することができました。



写真. 照洋丸での宮城、福島両県職員による観測採水・観測器(左)とプランクトンネット(右)

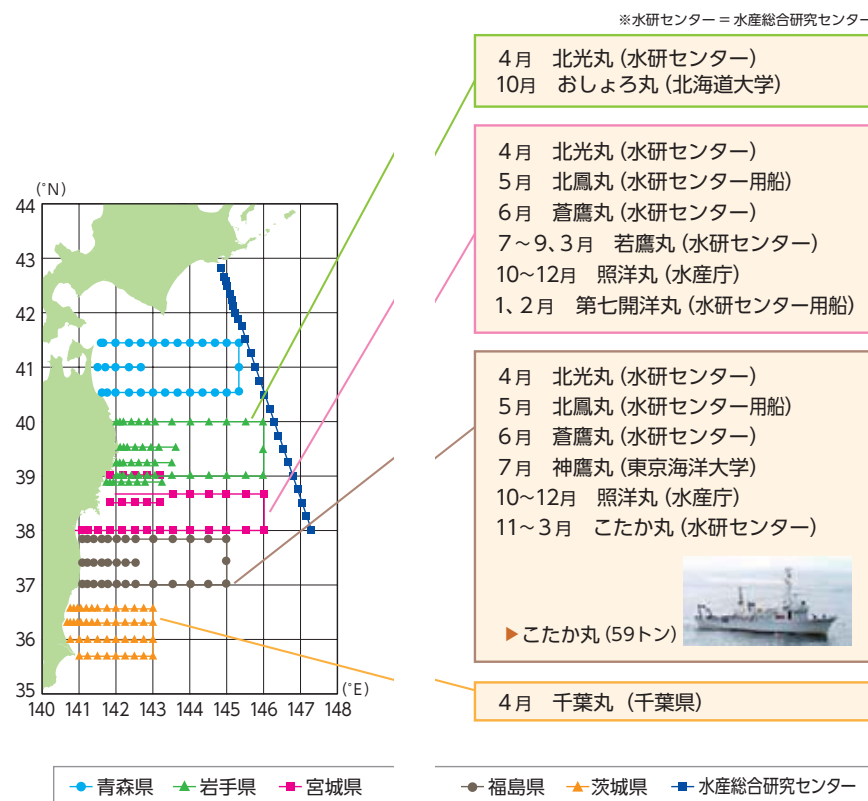


図1. 東北海域での各県による海洋

環境モニタリング定線と震災後の支援状況